

AGEO WEST ROTARY NEWS LETTER



上尾西ロータリークラブ

創立 1973 年 3 月 28 日

会長 : 中村 次男
幹事 : 齋藤 幸一
S.A.A : 水野 正男

副会長 : 小岩井 忠
副幹事 : 関根 雅

クラブ広報委員会 : 新井 登志彰 関根 雅
磯 早苗 今井 正
北川 健一

フェローシップ委員 : 9 月度 福崎 菊夫 小島 徳 10 月度 新井 登志彰 三浦 宏典



社会福祉法人上尾あゆみ会 理事長 武藤政春 様

社会福祉法人上尾あゆみ会 大石事業所を訪問し、利用者の皆さんの活動や支援の現場を見学。地域福祉への理解を深め、私たちにできる奉仕について考える移動例会となりました。

卓話 上尾あゆみ会の 取り組み

地域とともに歩み、求められる支援をカタチに

本日は、上尾西ロータリークラブの皆様へお越しいただき、ありがとうございます。日頃から上尾あゆみ会の活動にご理解とご協力をいただいていることに、改めて感謝申し上げます。上尾あゆみ会の歩みは、昭和 54 年に上尾市福祉作業所ふじ学園が開園したことから始まりました。その後、上尾市手をつなぐ親の会が運営を引き継ぎ、平成 2 年に社会福祉法人上尾あゆみ会を設立しました。現在は、大石事業所、上平事業所、ふじ学園の通所事業所をはじめ、7 か所のグループホームや相談支援事業所を運営しています。当初は、主に知的障がいのある方の作業や生活を支えるところから始まりましたが、現在では就労支援、生活介護、グループホーム、相談支援など、地域のさまざまなニーズに応じた事業を行っています。相談支援事業所「みのり」では、知的障がいのある方だけでなく、精神障がいのある方などからも相談を受け、必要な福祉サービスにつなげています。現在、私たちが大きな課題として取り組んでいるのが、入所施設の整備です。グループホームは地域の中で生活する大切な住まいですが、すべての方がそこで暮らせるわけではありません。ご本人や保護者の高齢化を考えると、将来にわたって安心して生活できる入所施設をつくってほしいという要望が強くあります。資材価格の高騰などにより計画に遅



上尾あゆみ会大石事業所 所長 平賀 健治 様

れも生じていますが、必要とされている施設ですので、実現に向けて取り組みを続けていきたいと考えています。また、昨年 12 月には西上尾第二団地にカフェ「茶輪」をオープンしました。利用者の働く場、自主製品を販売する場であると同時に、高齢化が進む団地の中で、地域の皆さんが気軽に集まれる場所にしたいという思いから始めたものです。利用者と地域をつなぐ大切な場所として、少しずつ育てていきたいと思っています。各事業所では、パンやクッキー、煎餅、饅頭などの自主製品をつくるほか、企業や地域の皆様から清掃や軽作業などの仕事もいただいています。利用者が働く機会を広げるためには、地域や企業の皆様とのつながりが欠かせません。皆様の会社や知り合いの中で、お願いできそうな作業や製品を活用できる機会がありましたら、ぜひお声がけいただければと思います。私たちの活動は、地域の皆様のご理解とご支援がなければ続けていくことができません。これからも利用者やご家族の声を受け止め、その時々が必要とされる支援を一つずつ形にしていきたいと思っています。今後とも、上尾あゆみ会の活動へのご理解とご協力をよろしくお願いたします。

Rotary  2026-2027 年度「持続可能なインパクトを生み出そう」

例会日 : 毎週水曜日 12:30 ~ 13:30 例会場 : 上尾東武ホテル ルミナス 事務局 : 上尾市谷津2丁目1番 34 号 日和ビル 4F



一人ひとりの「できる」と「楽しい」に寄り添って



上尾あゆみ会大石事業所 係長 大熊 由美子 様

大石事業所は平成3年に開所し、現在は「生活介護事業」と「就労継続支援B型事業」を中心にサービスを提供しています。現在は、19歳から69歳まで、合わせて64名の利用者が通っています。元気に通所できる方であれば年齢による上限はなく、一人ひとりの状況に合わせた支援を行っています。生活介護事業では、日中の生活支援だけでなく、作業や創作活動、体を動かすプログラムなどを取り入れています。大石事業所では比較的作業を中心にしながら、活動や機能訓練も組み合わせ、毎日の生活にメリハリを持って過ごしていただくことを大切にしています。就労継続支援B型事業は、一般企業で働くことが難しい方に、職員の支援を受けながら働く機会を提供する事業です。利用者は、パンやクッキーの製造・販売を行うグループと、清掃や軽作業などに取り組むグループに分かれて活動しています。施設外では、霊園や寺院、企業などの清掃を行っています。施設内では、古着に値札を付けてハンガーに掛ける作業や、おもちゃの袋詰めなどにも取り組んでいます。作業によって得た収益から必要な経費を除き、利用者の皆さんへ工賃としてお支払いしています。一日の流れは、午前9時から通所し、体操や朝の会を行ってから作業を始めます。昼食後は再び作業や活動に取り組み、着替えや反省会を行って午後4時頃に帰宅します。送迎にはマイクロバスや事業所の車を使用し、自宅やグループホームなどから通っていただいています。私たちが支援の中で特に大切にしているのは、利用者の皆さんに毎日一つでも「今日はこれが楽しかった」「今日はこれができた」と思っただくことです。作業が得意な方もいれば、大人数の場所や大きな声が苦手な方もいます。無理に全員が同じことをするのはなく、それぞれが落ち着いて活動できる場所や、その方に合った作業を考えながら支援しています。大石事業所が、利用者の皆さんにとって安心して通うことができ、自分の役割や楽しみを見つけられる場所であり続けるよう、これからも一人ひとりに寄り添っていきたいと思います。

President's Message

現場を知ることから、次の奉仕へ

本日は、私たちの移動例会を温かく受け入れていただき、ありがとうございます。事前の準備から本日のご案内までご尽力いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。ロータリークラブが社会奉仕活動を行ううえで、地域社会が今どのような課題を抱え、どのような支援を必要としているのかを知ることは、常に大きなテーマです。今回ご縁をいただき、大石事業所を訪問し、実際の支援の現場を見学できることは、大変意義のある機会だと考えています。私たちにはそれぞれ仕事があり、福祉の現場で継続的に一緒に活動することは、時間的にも難しい面があります。しかし、地域の福祉事業所に目を向け、関心を持ち続けることはできます。そこでどのような方が働き、どのような支援が行われ、どのような協力が必要とされているのかを知ることが、次の奉仕活動につながっていくのではないのでしょうか。今回の視察を通して、事業所でつくられている製品を自分たちの会社や地域で活用できないか、仕事としてお願いできる作業はないか、支援を必要とする方を事業所へつなぐことができないかなど、それぞれの立場で考えていただきたいと思います。直接活動することだけが奉仕ではありません。現場を知り、関心を持ち、自分たちにできる形でつながっていくことも、地域を支える大切な力になります。本日の経験を今後の活動に生かし、皆様とともに地域社会を支える奉仕を続けてまいりたいと思います。



2026-2027 年度会長 中村 次男 君

Snapshots



施設前にて記念撮影



施設内で製造されたパンやクッキー



例会風景



施設見学 エントランス



施設見学 パン工場



謝辞 社会奉仕委員長 小山 清 君